

葉いもち・カメムシなど病害虫に十分注意が必要！！
 確実な防除対策と、稔りに向けた水管理が重要です！！

新・米づくりやまがた日本一運動置賜地域本部

7月20日現在、水稻の生育は、茎数が並～やや少ないものの、葉数は進んでおり、出穂が早まるほ場も見受けられます。

病害虫関係では、管内全域で葉いもちの発生が確認されており、7月12日～16日のカメムシ一斉すくい取り調査では、直近5ケ年で2番目に高い確認地点率となっています。

防除対策を確実にを行うとともに、登熟後半まで活力ある根を作る水管理等を徹底しましょう！！

	川西町上小松		飯豊町椿	
	本年	平年差・比	本年	平年差・比
草丈 (cm)	68.3	106	75.6	110
茎数 (本/m ²)	612	97	523	76
葉数 (枚)	11.6	+0.4	12.2	+0.6
葉色 (SPAD)	41.1	+0.9	38.9	-2.9
備考	5/22移植		5/16移植	

【東北地方 1か月予報】

7月17日～8月16日

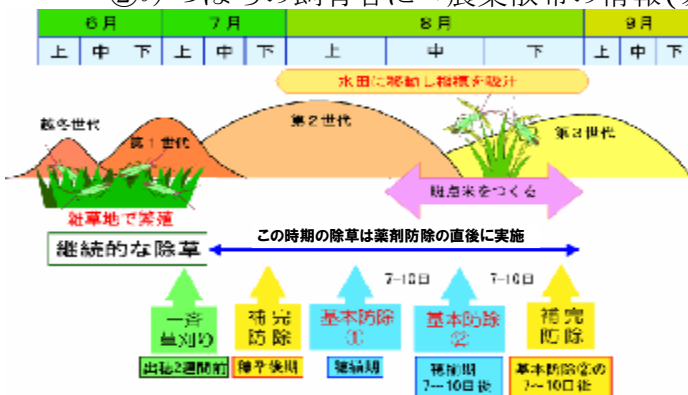
- ◇ 天気は数日で変化。
- ◇ 雷雨の起こりやすい時期がある
- <気温の予報>
- 7/17～7/23：高い
- 7/24～7/30：平年並～高い
- 7/31～8/13：平年並～高い

今年はカメムシが多い？！



～ 基本防除は、時期を逃さないように注意しましょう ～

- ◇ 今年の出穂は、平年並～やや早まる予想。防除時期を逃さないことが肝心。
- ◇ この時期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を促すため、草刈り後に速やかに薬剤防除を実施するか、水田の薬剤散布計画に合わせて実施すること。
- ◇ アカヒゲホソミドリカスミカメは飛行して広範囲に移動するため、広域で一斉に防除を行うと効果がアップ。
- ◇ 農薬使用による「みつばち」への危害を防ぐために、次の点に留意。
 - ① 近隣での「みつばち飼育の有無」を確認
 - ② みつばちの飼育者に「農薬散布の情報(場所や日時、農薬の種類)」を提供



【図】斑点米カメムシ類の発生態と防除時期

【表】いもち病・カメムシ類の基本防除時期

防除時期	対象病害虫	
	いもち病	カメムシ類
6月中旬～7月下旬	葉いもち発生確認時	—
穂孕み後期(出穂直前)	基本防除 ◎	補完防除 ○
穂揃期(出穂5～7日後)	基本防除 ◎	基本防除 ◎
穂揃期防除10日後	補完防除 ○	基本防除 ◎
さらに10日後	—	補完防除 ○

栽培履歴の記帳はトレーサビリティの第一歩！今は「安心」なくして、おコメも売れません！！

農薬の使用に際しては、使用基準を再確認し正しく使いましょう…！

農薬情報は山形県が運営する農業情報サイト『やまがたアグリネット(愛称:あぐりん)』

<http://agrin.jp/>を参照ください。



葉いもちが見受けられます。要注意です！！



～ 今年も葉いもちには要注意！ 感染しやすい気象条件が連続しています ～



- ◇ 6月下旬以降、葉いもちの感染に適した気象条件が連続。
- ◇ ほ場の見回りを行い、早期発見・早期防除を！！

稲にとって、これからは水が必要です



～ 幼穂形成期から穂揃期の水管理は、とても重要です ～

- ◇ 穂の分化・発育から、出穂・受精・開花は、稲の一生で最も大きな変化が起こるとともに、水分や酸素を最も多く必要とします。
- ◇ 出穂までは、間断かんがい・湛水管理を行い、登熟の向上・品質向上に結び付けましょう。
- ◇ 受精・開花期は生理的に活発な時期。また、穂揃期頃は、登熟期間の中で、最も盛んに光合成が行われる時期。この時期は、湛水管理を実施すること。

「コシヒカリ」の『倒伏』が心配

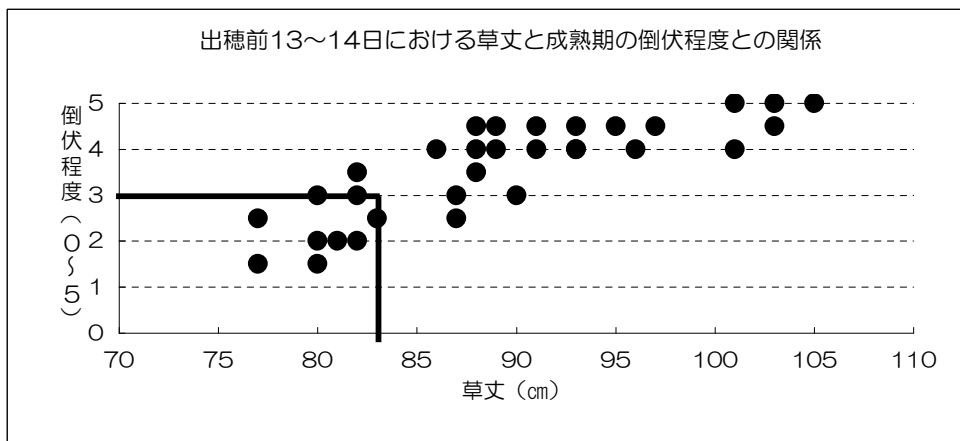


～ 今年は、葉色が濃く、草丈が伸びている「コシヒカリ」が多く見受けられます！ ～

- ◇ 生育診断を実施し、倒伏防止に努めましょう。

【出穂13日～14日の生育診断（「コシヒカリ」の追肥時期：7月30日頃）】

- ・ 草丈が、『83cm以下』であれば、倒伏程度はおおよそ3以下倒伏程度0～5段階評価）となるので、穂肥は適量（10a当たり窒素成分で1.0～1.5kg）とする。
- ・ 草丈が、『85cm以上』であれば、倒伏程度が4以上となる場合が多いので、減肥（ムラ直し程度）するか、追肥しない。
- ・ 倒伏軽減剤を使用する場合、登録内容をしっかり確認すること。



イネアオムシ・稲こうじ病にも注意が必要



～ 例年発生しているほ場は要注意です ～



- ◇ イネアオムシ(フタオビコヤガの幼虫)の発生を一部ほ場で確認。例年、発生が確認されるほ場では今後多発生が心配されるため、ほ場を見回り、若齢幼虫の時期に防除！
- ◇ 昨年稲こうじ病が発生したほ場では多発生が心配されるので、出穂10日前までに防除を実施。